

箱根山【山間部】冬の寒さは

箱根ビジターセンター

ここで言う箱根の山間部とは、標高600m以上の地区(仙石原・湖尻・元箱根・芦之湯・大涌谷等)です。こちらの地区の冬は時によってマイナス10度以下に冷え込むこともあります。その時は屋外に露出している水道管などが凍結する可能性があるため、冬は常に水道管を電気で温める凍結防止配線を巻いています。家のサッシ窓の内側では結露などが凍り、窓の開閉に苦労する時もあります。

令和3年12月現在、気象庁発表によると、ラニーニャ現象が続いているとみられるとのこと。ラニーニャ現象とは、太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて、1年程度に渡り海面水温が平年より低くなる現象です。この現象が起きた冬は気温が平年を下回ったり大雪になることがあることから、箱根でも2014年2月14日～15日に降った一番の大雪(仙石原では60cm位から80cm位の積雪)に匹敵する雪が降る可能性も捨てきれません。

冬の箱根に車で来るときはスタッドレスタイヤ・タイヤチェーンが必需品と考えて下さい。車で雪の中を走行すると、翌日の朝、車のドアが凍結し中々開きにくくなる時もあります。山の天気を甘く見ないようにしましょう。また、4月のドカ雪もたまにあるので頭の片隅に置いておいて下さい。(執筆：塩川)



膝の高さまで積もりました



軽自動車に雪に覆われてしまいました

自然公園へでかけよう



環境省箱根ビジターセンター
Hakone Visitor Center
〒250-0522 足柄下郡箱根町元箱根 164
Tel 0460-84-9981
<http://hakonevc.sunnyday.jp/>

県立秦野ビジターセンター
Hadano Visitor Center
〒259-1304 秦野市堀山下 1513
Tel 0463-87-9300
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawave/>

県立西丹沢ビジターセンター
(旧西丹沢自然教室)
Nishi-Tanzawa Visitor Center
〒258-0201 足柄上郡山北町中川 867
Tel 0465-78-3940
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawave/>
開館日、開館時間、イベント予定等は各ビジターセンターまでお問合せください。

【新型コロナウイルス感染症対策に関するご注意とお願い】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各施設をご利用いただく際は、手指の消毒の徹底・マスクの着用をお願いするとともに、展示室の人数制限をさせていただく場合があります。



箱根ビジターセンター、秦野ビジターセンター、西丹沢ビジターセンターのFacebookページ公開中！ 最新の情報をご覧ください。

環境が分かる地衣類

秦野ビジターセンター

地衣類とは地上で生きている藻類と菌類が共生している生き物です。藻類が光合成で作った栄養を菌類に与え、菌類が大気中や雨水、霧などから水分を取り込んで藻類を乾燥から守っています。

地衣類の一種であるウメノキゴケは、空気の汚れているところでは消滅し、きれいなところでは良く成長する大気汚染に敏感な種類なので、環境指標になっています。近年の調査から、排ガス規制などにより大気の状態が良くなりウメノキゴケが増える所がある一方で、道路の拡張や新道の開通により環境が変わり無くなってしまった所もあります。

また、寒冷な地域では共生する藻類が変わるので、少し黄色味のつよいキウメノキゴケが見られるようになります。秦野ビジターセンターのある大倉や丹沢湖はちょうど寒さによる生息域の境目にあたり、ウメノキゴケとキウメノキゴケの両方を観察することができます。

この他、ここ秦野ビジターセンターのある秦野戸川公園内では、同じウメノキゴケ科であるナガサルオガセも観察されています。ナガサルオガセは寒い地方で見られる地衣類で、成長すると1メートル以上にもなります。以上のように、大気汚染や気候などの環境変化に敏感な地衣類について、生育環境なども考えながら観察していくのも面白いと思います。(執筆:木村)



ウメノキゴケ



キウメノキゴケ



ナガサルオガセ

西丹沢ビジターセンター登山のおすすめアイテム (第3弾) ヘッドライト2個持ちの勧め

西丹沢ビジターセンター

今回のお勧めアイテムは、日帰り登山であっても『ヘッドライト2個持ち』です。晩秋の11月から厳冬期の2月にかけては、日没が早いシーズンとなるため、登山計画に遅れが生じて暗くなってからの下山ということもあると思います。当然、登山道には街灯もなく、新月の日などでは真っ暗になります。最悪の場合、下山できずに寒空で朝方までビバークを強いられます。

ほとんどの登山者は、日没時に登山道の状況などが確認できる、照度が50ルーメン以上のヘッドライトを携行すると思います。今回、私からのお勧めは、もう一つ100～300ルーメンの高照度ヘッドライトを持っていたりすることです。この2つのライトで、下山中の道迷いや転倒によるけがのリスクを大きく軽減できます。

2つのヘッドライトを使う方法として、高照度のものを頭に付けます。そして、もう一つの低照度のものは、ライトのベルトを最大にし、腰の位置につけ、足元を照らします。この方法により足元は常に照らされ、また頭に付けた高照度のライトで登山道の先を見渡すことができ、道標や登山道分岐点などの発見がしやすくなります。

ライトを使用しての下山は中々ないと思いますが、備えあれば患いなし。ぜひヘッドライト2個持ちをしていただきたいです。そして、ヘッドライトは災害時に欠かせないアイテムになることもお忘れなく。(執筆:澤田)



頭に高照度、腰に低照度のヘッドライトを装着



2つのヘッドライトで足元を明るく